

## 東宇治高校開校の頃 ～PTA開校記念誌から～

皆さんは東宇治高校生として誇りを持って高校生活を送っていますか？ 東宇治高校は昭和49年、西暦1974年に開校した学校です。最近、開校当初のPTAの会報を読む機会がありました。開校当時のことが詳しく書かれていたので、一部を皆さんに紹介します。

昭和47年・1972年当時、宇治市にある公立高校は城南高校1校でした。人口が急増していた宇治市に公立高校を増設してほしいと、東宇治地域の小学校・中学校のPTAを初めとする地域の方々が、京都府にお願いをされました。京都府でも宇治市に高校を新設する方針でしたが、地域の方々の熱意で当初より早く計画が進んで昭和49年・1974年の開校になったそうです。

開校当初の様子を紹介します。

4月6日 入学予定者登校、クラス発表の後、生徒全員で生徒机を教室に搬入

4月10日 入学式 東宇治高校の体育館は未完成なので木幡小学校の講堂を借りて実施、式終了後、高校まで歩いて移動してからホームルーム

4月18日 生徒・教職員全員で、校舎の周囲にツツジの苗2,000本を植樹

といった具合。少し飛びますが、

7月26日 夏の高校野球京都府大会で、1年生だけの野球部がシード校の福知山商業(現福知山成美)高校を破り、校歌無しで校旗が揚がり感激の涙を流す(校歌ができたのは9月でした)。

初代生徒会長のあいさつも紹介します。

「入学時は、囲いの中に校舎が一棟建っているだけで、校舎内の設備も最低限度ぎりぎりだったように思います。僕が特に印象に残っていることとしては、グラウンドのことがあります。反対側にいる人が見えにくいくらい真ん中の方が盛り上がっている、ひどいグラウンドでした。ですから、体育では、グラウンドの整備という珍しい授業が少しの間続きました。他の学校と比べると、まだまだ引け目を感じますが、僕たちが、自分の手で汗を流して造ったんだということが、肌で感じられますから、その親しみ、愛着心は相当なものです。考えてみれば、今もまだ一生懸命工事を続けておられる人々にとっても、同じだということです。それを思えば命がけで造られた学校で学ぶわけですから、僕たちも勉強やスポーツに、命がけの心構えで臨むことが、学校に対して、もちろん自分に対しても、一番ではないでしょうか。」  
初代生徒会長の言葉でした。

PTA開校記念誌を見て、この東宇治高校開校に至る地域の方々の思い、開校当初の生徒や先生の苦勞、でも自分たちの手で作り上げていった愛着心とプライド、将来への意欲、そのようなものを強く感じました。

開校間もない頃の生徒の方は、皆さんにとってはあまり接することのない、今は御年配の方ですが、今もこの地域で活躍し、地域を支えている方がたくさんおられます。

皆さんは、そのような熱い思いをもって作られた東宇治高校の伝統を継ぐ者として、誇りを持ってほしいと思います。